



みなさんは、日々の暮らしの中にご近所付き合いはありますか？
また、気の合う仲間がいますか？

5年後、10年後に向けて「住みやすい、住んでいてよかった。」と思える、「人と人とのつながりのある地域」をめざし、それを「地域のお宝」として、ご紹介していきます。

取材先

尾島地区

「二人のつながり」



笑顔が素敵な新井正雄さん（85）
（写真右）と薩田廣善さん（73）（写真左）は、毎日、終わりのないメールのやりとりをしています。通称「励ましのメール」というそうです。メールのやりとりは始めて3年が経ちます。

朝6時に新井さんからメールを送ります。「おはよう☀️」、それから今日の予定を打ちます。最近は、新井さんがスマートフォンに変え、まだ慣れていないため、薩田さんからメールを送ることもあるそうです。

メールを送る時のポイントを教えていただきました。それは絵文字を使うことです。「絵文字は種類が多いから、文章に合った絵文字を見つけるのが大変なんだよ。でもこれが頭を使うから良いんだよね。」と

話してくださいました。さらに「メールのおかげで普段、面と向かって言えないことが、自然と言えたことでお互いの心がオープンになった。コロナで会えなかった時は本当にメールをやっていたよかったです。」などとおっしゃっていただきました。お二人にとって普段何気なく行っているメールですが、これは自然な見守り見守られ・安否確認であり、さらにそこでの世間話は情報交換につながっています。



新井さんは現在、南ヶ丘町のいきいきサロン、1%まちづくり事業をご担当するなど地域の活性化に貢献されています。人と人との接点（つながり）を作るのが大好きとのことで、これからも色々な行事を通して新しい人との接点を作っていきたいと意気込みを語ってくださいました。



薩田さんは頼まれて始めた自治会の仕事を通して、新井さんをはじめ地域の人達と出会い、地域を知ることができたそうです。家族のつながりだけでなく、友人や地域の人達とのつながりは自分の支えであり元気の源です。だから、いつも「ありがとう」と感謝の気持ちを忘れませんと話してくださいました。



チェックポイント

●人とのつながりは年齢に関係なく大切です。コロナ禍で会えなくてもメールや電話を上手に利用して人とのつながりを持つことは、自然とお互いの情報交換・見守りになります。また、新しいことに挑戦することは、新たな出会いにつながります。



